

2015 年度 学校関係者評価委員会
議事録

学校法人 滋慶学園
福岡ベルエポック美容専門学校

学校法人 滋慶学園 福岡ベルエポック美容専門学校
2015 年度 学校関係者評価委員会 議事録

報告書作成者:塩原 誠

1. 開催日時: 平成 27 年 5 月 28 日(木) 14:00~16:00
2. 開催場所: 福岡ベルエポック美容専門学校
3. 参加者: 学校関係者評価委員 計 16 名

【学校関係者評価委員】

| | | |
|-------|--------|--|
| 湯山 英寿 | 業界関係者 | 株式会社ダリア 市場開発部 部長 |
| 清水 俊二 | 業界関係者 | ビューティービジョン共同組合 理事 |
| 金井 良子 | 業界関係者 | (株)リクルートマーケティングパートナーズ 経営企画部 ブライダル総研 |
| 足立 寛之 | 業界関係者 | 株式会社カンケイプランニング 代表取締役 |
| 田中 浩一 | 高等学校代表 | 福岡県立福岡農業高等学校 校長 |
| 大島 弘枝 | 近隣代表 | 福岡市大浜公民館 館長 |
| 松井 裕一 | 保護者代表 | 保護者代表 |
| 金田 芙由 | 卒業生代表 | HAIR MAKE ELOGE 店長 |

【学校側参加者】

| | |
|--------|--------------------|
| 古島 昭博 | 学校法人 滋慶学園 常務理事 |
| 飯塚 洋一 | 同 イースト西日本エリア長 |
| 松崎 輝生 | 福岡ベルエポック美容専門学校 学校長 |
| 塩原 誠 | 同 事務局長 |
| 勝原 修吾 | 同 教務部長 |
| 加藤 真也 | 同 教務部 美容師科 学科長代理 |
| 有田 まどか | 同 教務部 美容師科 学科長補佐 |
| 西田 彩 | 同 教務部 ブライダル科 学科長 |

4. 会議の概要

- (1) 各委員のご紹介
- (2) 学校長挨拶と委嘱状交付
- (3) 本委員会の目的について
- (4) 平成 26 年度自己点検・自己評価結果報告及び平成 27 年度重点目標の説明
- (5) 質疑応答及び審議

(自己点検評価・重点目標説明への意見)

意見1

・卒業してからの離職率は他学校に比べ数値は良いが、入学者＝就職希望者にならない問題はある。サロン見学ではサロンが最高のおもてなしをする事も多くギャップを感じて辞める人が多い。美容を続けていけばまだいいが、美容自体を辞めてしまうのはもったいない。対策として、積極的に同窓会や県外就職者訪問をする事でやる気につながるのではないかな。

意見2

・離職について、学生とサロンとのミスマッチが原因の一つと考えられる。だが、サロン説明会で言っている事と就職後で話が違うサロンも確かにあるのが現実。説明会と現実(現場)とのギャップがある事を前提に就職して欲しい。また、本人だけではなく、担任やスタッフが関わってしっかりとサロン対応を行う必要がある。人材が定着しないのでサロンも不安がある。学校と業界との更なる連携強化が望まれる。

意見3

・他校では、技術を学ぶ時間より国家試験対策の授業ばかりだと聞いている。在学中は実践的な授業が多く、結果、卒業後同期の中で即戦力になれた。今後も実践的な授業を中心に、メンタルの強い即戦力となる人材を輩出し続けて欲しい。

意見4

・就職するまでのインターンシップも必要だと思うが、現場体験自体が学生の負担だったり、逆にやる気を失い学校を辞めてしまう事も考えられる。卒業後のフォローとして、就職先訪問を徹底して頂きたい。元担任が職場で相談できないことを聞いて、アドバイスを与えることで離職防止に繋がるものと考えられる。

意見5

・学校の取り組みは素晴らしい。また、離職の問題は学校教育の問題だけでなく、受け皿である業界にも問題はある。ブライダル業界では、3年以内の離職が目立っている。理由は理想と現実のギャップを現場で感じるのと目標となるロールモデルが少ないこと。離職を防ぐ手立てとして、長期的なスパンで考えることが重要。10年後、30年後どうなっていたいかを明確にする事で、今すべき事が必然的に出てくる。また、そうなる為に必要なことは何かをしっかりと考えさせる事で、ゴールが明確になり目標を持てるようになるのではないかな。

意見6

・ブライダルプランナーの離職について、職場環境に因るところも大きい。女性ばかりの世界で人間関係に悩んでいる方も多いと聞いている。新しく入社した人材を見守り、育てる育成システムが必要。職場環境が整っているかどうか(どのような受け入れやケアをして頂けるのか)学校から企業に問いかけていくことが重要である。

意見7

・現在、高校からの進学は大学短大55%、専門25～30% 就職20%。ここ4～5年では専門学校進学が伸びている。そうした中、高校でも読み書き・計算が出来ない学生が増えている。送り出す側としても基礎学力をつけて送り出したい。今後、センター試験廃止の動きやアクティブラーニング（課題解決型学習）の導入など、大きく教育の形が変わってくると考えられる。

意見8

・小中高教員の離職率も高い。元々、コミュニケーション能力・人との関わりが苦手、大学での実習系の授業は理論だけが頭に入っている。それにより、現場とのギャップを感じる事も多く、途中で離脱してしまう。社会に出るにあたり、最も大切な能力はコミュニケーション能力である。また、現場実習では事前学習と実習後、学校で振り返り、問題を再認識する事が大切であると考え。なお、貴校の学生かどうか定かではないが、早朝・深夜に公園で大きな声で騒いでいたりする。今後、マナー指導を徹底して欲しい。

意見9

・高校教育からキャリア教育に力を入れていかなければいけない。進路指導は入学の翌日から始め、1年次からオープンキャンパスへ積極的に参加させている。高校は、「進路の接続」「学びの接続」「授業の接続」の場（教育機関）でなければならないと考える。

5. 次回予定 平成28年5月下旬(後日文面にて連絡)

6. 評価結果およびご意見に基づく改善方策

※別紙(学校関係者評価委員会 評価結果および改善報告)参照